



シリーズ 今、気づき、じんけん

# 共に生きる 25

## まずは障害を知ることから

久留米市は、さまざまな障害がある人たちと話し合いながら障害者差別の解消に向けた条例の策定を進めています。条例の検討に携わり、自身は「高次脳機能障害」のある田端浩一さんに話を聞きました。

### ある日突然記憶できなくなる

平成 20 年、私は交通事故に遭い、脳内出血を起こしました。なんとか一命は取り留めたものの、右半身のまひや高次脳機能障害などが残りました。高次脳機能障害は事故や病気の後遺症で起こる障害で、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害が主な症状とされています。似ているものとして認知症が挙げられます。認知症と違い加齢による進行はせず、人によって障害の程度や症状もさまざまです。私も数分前の言動を繰り返したり、「あいうえお」すら出てこなかったりもしました。感情のコントロールもうまくできなくなり、家族に怒りをぶつけて、疲れて寝て、起

資格の勉強をした記録はあっても記憶にないことも、諦めずに反復したことで



田端浩一さん

平成 20 年、交通事故で高次脳機能障害に。記憶障害がありながら、平成 28 年に行政書士の資格を取得し、翌年にたばた行政書士事務所を開設。昭和 56(1981) 年生まれ

きたら怒っていたことすら忘れるということもありました。

### 「見えない障害」を認知する

高次脳機能障害は身体的な障害と違い、外見では分かりにくい「見えない障害」といわれています。周りから理解が得られにくく、「怠けている」と捉えられることもあり、つらい思いをします。障害のことを知っていれば、接し方も変わってくるはず。知らないが故に、偏見や差別が生まれるんだと思います。少しでも関心を持つことが、「見えない障害」を見えるようにする第一歩だと思います。

### 障害者差別禁止条例の制定に向けて

平成 30 年 5 月から、障害のある当事者などの市民活動団体 35 団体で構成する「久留米市障害者差別禁止条例をつくる会」に参加し、さまざまな障害のある人たちと議論しています。自分と同じようなつらい思いをしてほしくない、障害のある人たちのサポートになればと思い参加しました。現在、市が進めている障害者差別禁止条例(仮称)の検討ワーキンググループのメンバーでもあります。条例を通して、さまざまな障害への関心・理解が進み、誰もが生きやすいまちになってほしいと思っています。

☎障害者福祉課

(☎ 0942・30・9035、FAX 0942・30・9752)



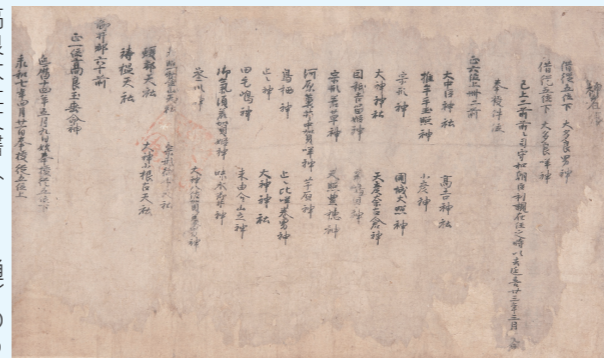
北部九州の歴史研究で貴重と評価

## 高良大社文書が重要文化財指定に

国の文化審議会は、11月18日に高良大社(御井町)に伝わる古文書 146 通を重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申しました。

江戸時代以前の高良山は大祝職を務めた鏡山家、大宮司職を務めた宗崎家、神仏習合のな

高良大社文書(146通)のうち筑後国解写(神名帳)



高良大社文書(146通)の一部(写真:高良大社提供)



かで仏教を執り行う座主家の三家が中心になり、管理をしていました。高良大社文書は、これら三家に伝わった文書を中心に構成されています。室町時代から安土桃山時代に、九州の諸大名やその家臣が三家に宛てた文書などが数多く見られます。九州の歴史研究の上で貴重なものと高く評価されました。

市の国指定重要文化財は 15 件目。古文書としては市で初の指定です。中でも、944(天慶7年)の「筑後国解写」は、筑後国内の神々の名前を書き記した国内最古の神名帳と確認されています。

☎文化財保護課

(☎ 0942・30・9322、FAX 0942・30・9714)

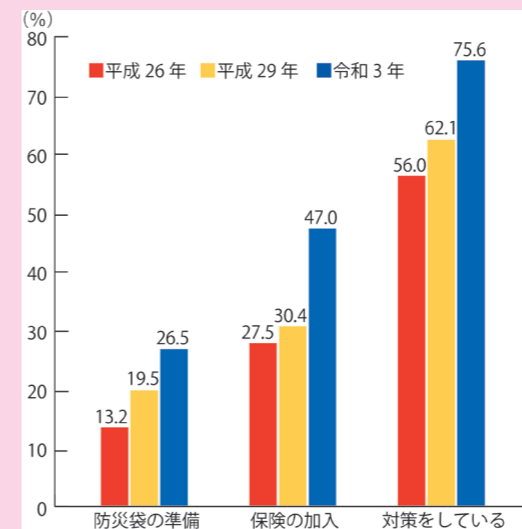


### セーフコミュニティシリーズ④ 防災活動



けがや事故を予防するポイントを全9回シリーズで紹介します。実践しましょう

### 市民の防災対策の変化

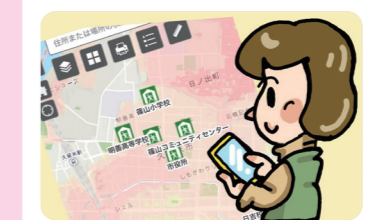


### 早めの対策で身を守る

近年、久留米市でも豪雨などの自然災害が多発しています。そのため、市は出前講座や防災訓練、地域の防災・啓発活動をけん引する役割を担う防災士や防災リーダーの養成などを実施。災害に備えた対策をしている人が平成 26 年の 56.0% から、令和 3 年には 75.6% に増加しました。いつ起こるか分からない災害に備えて、早めの対策を心掛けることが大切です。

#### すぐにできる予防策

☑ 災害が起きる前にハザードマップの確認



☑ 日頃から防災袋の準備



☎防災対策課

(☎ 0942・30・9074、FAX 0942・30・9712)